

実用新案公報

昭54-6559

⑪Int. Cl.?

A 63 H 3 / 06
G 07 F 13 / 00

識別記号

⑫日本分類

120 M 97
115 E 1

⑬内整理番号

6692-2C
6784-3E

⑭公告 昭和54年(1979)3月27日

(全3頁)

1

2

⑪風船自動販売機用の風船口金

⑫実願 昭50-92568
 ⑬出願 昭50(1975)7月2日
 公開 昭52-7799
 ⑭(3)昭52(1977)1月20日
 ⑮考案者 池本菊次
 宇治市広野町新成田100の27
 ⑯出願人 池本車体工業株式会社
 宇治市大久保町井の尻54
 ⑰代理人 弁理士 竹田明弘

⑪実用新案登録請求の範囲

逆止弁機能を有して風船の口に嵌着される口金本体部2と、移送の為の案内係止機能を有するガイド部3とから成り、前記口金本体部2とガイド部3とは容易に切断可能な連結部4によつて一体成形されており、且つ、風船支持糸12の両端が夫々口金本体部2とガイド部3とに固着されていて、連結部4が切断された時には口金本体部2とガイド部3とは風船支持糸12によつて連結されたようになり、更に、ガイド部3は折掛けとなることを特徴とする風船自動販売機用の風船口金。
 考案の詳細な説明

この考案は風船自動販売機に使用する風船の口金に関するもの。

従来、風船の自動販売機は既に提案されているしかし、この自動販売機では予じめ1本のベルトに等間隔に風船を取付けておき、このベルトを移動させることによつて風船に順送りを加え、所定の個所で気体供給ノズルから風船内にヘリウムガスなどを送り込んで、風船を膨らませ、その後、ベルトから風船を外して放出提供するという方式をとつている。この為、従来の自動販売機ではベルトを使用することが不可欠の要件である他、風船を全てベルト上にセットしておく必要があり、コストが高くなるなどの欠点があつた。

本考案はこのような従来の欠点に鑑み、ベルトを使用する必要のない風船口金を提供せんとするものであつて、その特徴とするところは、風船口金を、互に連結された口金本体部と、ガイド部とで構成し、自動販売機内での風船の移送案内はガイド部によつて行わせると共に、風船を膨らませて放出提供する際には、このガイド部を口金本体部から切り離し、ガイド部と口金本体部とを結んだ糸によつて、ガイド部を風船支持用の縄掛けそして利用するようにしたことにある。

以下に本考案を図面の実施例について説明する。風船口金1は口金本体部2とガイド部3とから成り、これら両部分はプラスチックなどで連続状に一体成形されている。但し、この両部分の連結部15は肉薄に形成されていて容易に切断できるようになつてゐる。また口金1の内部は気体供給用ノズル20を挿入できるように中空になつていて、口金本体部2の端面には透止弁5が取付けられている。従つて、風船を膨らませる時には、単にノズル20を口金に挿し込んでヘリウムガスなどの気体を吹き込んでやるだけでよく、吹き込みを止めれば自動的に逆止弁機能が作用して気体の漏洩は防止される。逆止弁5としては、第1図の実施例では口金本体部2の端面中央に通気孔6を設け20更に口金本体部2の端面には密着状に弾性キヤップ7を被せると共に、この弾性キヤップ7には前記口金本体2の通気孔6と齧合する位置に通気孔8を設けたものが用いられている。従つて、ノズル20から気体が吹き込まれた際には気体の圧力25で弾性キヤップ7が図中の鎖線の如く膨らみ、両方の通気孔6、8が連通状となつて、気体の吹き込みが可能になり、また反対に、ノズルからの気体の吹き込みを止めれば、弾性キヤップ7はそれ自身の有する弾性復元力と風船内の気圧によつて口金本体部2の端面に密着し、通気孔6、8が閉されて風船内の気体は外部に流出できなくなるのである。なお、風船21は膨らませていない状

3

態で、その口22を口金本体部2の外面に嵌め込んでおく。9は口金本体部2の外側壁に設けられた風船係止用鍔、10はキヤツップ係止用鍔である。

またガイド部3の外側壁には自動販売機内での移送案内用の係止溝11が設けられていて、自動販売機内の案内板23と係合してこの案内板に沿つて自由に移動させることができるようになつていて。12は風船支持糸であつて、口金本体部2或いはガイド部3の胴体に巻き付けられており、且つ、この糸の両端は夫々口金本体部2とガイド部3とに係止固定されていて、口金本体部2とガイド部3とが切断された後に、両者を連結する役割を果す。

第3図は他の実施例であつて、逆止弁5としてポール13が用いられている。ここで、14はOリンク、15はポール押えであつて、第1図のものと同様の逆止弁機構を有する。また、この実施例ではガイド部3の外側壁に係止鍔16が設けられている。

以上の如く、本考案の風船口金は、口金本体部2にガイド部3が一体的に連設されているので、自動販売機内での風船の移送はこのガイド部を利用して、自由に且つ確実に行うことができ、従来のような移送用のベルトを使用する必要がない。

また本考案の風船口金では口金本体部2とガイド部3との連結部4が肉薄に形成されているので、風船内に気体を充填した後に、ノズルを更に前方に押し出すなどの方法で、この連結部4を簡単に5切断することができる。この結果、風船側に残る口金は口金本体部2だけとなり、口金の重量が軽くなつて風船が上昇し易くなり、またガイド部3は風船提供時には指掛けとして利用でき、幼児などが風船を支持する際に極めて便利であり、更に口金本体部2とガイド部3との切り離しと同時に10風船支持糸が自動的にほどけるので、実用上非常に便利である。

図面の簡単な説明

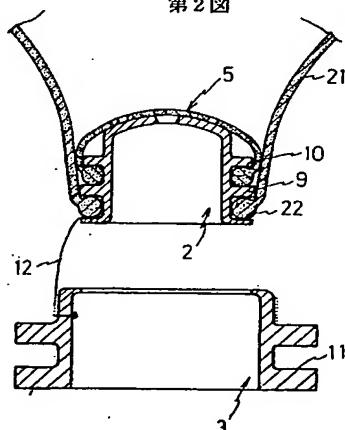
図面は本考案の風船口金の実施例を示し、第15図は断面図、第2図は分離された状態の断面図、第3図は他の実施例の断面図、第4図は風船提供時の図である。

1 ……風船口金、2 ……口金本体部、3 ……ガイド部、4 ……連結部、5 ……逆止弁、12 ……20 風船支持糸。

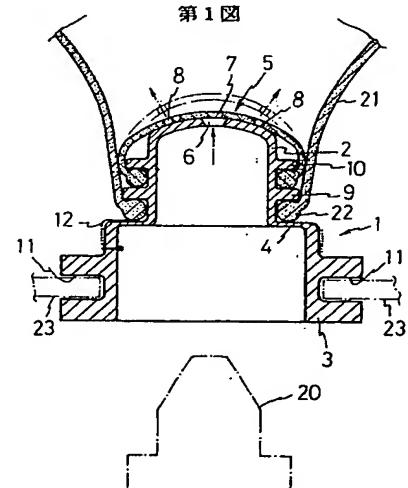
⑥引用文献

特 公 昭49-36435

第2図



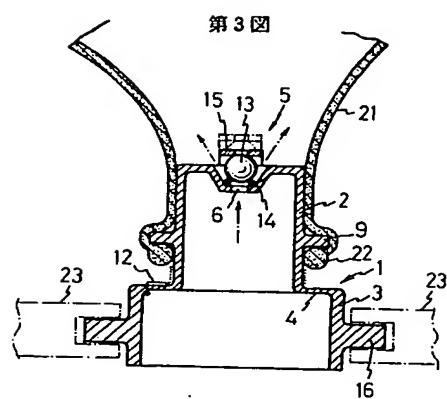
第1図



(3)

実公 昭54-6559

第3図



第4図

